

テモテ：離れた教会をつなぐ信頼できる配慮

パウロはなぜ何度もテモテを教会に送りましたか。

テモテは信頼される協力者として旅をし、パウロが直接訪問できない共同体を支えました。パウロの書簡は、実証された奉仕と人々への心遣いを強調します。知らせを運び、信徒を力づけることが、宣教の中心的な働きだったと分かります。

広がる宣教に加わる

使徒言行録によれば、テモテが初めに宣教に加わったのはリストラで、信徒たちが彼をパウロに推薦しました。母はユダヤ人、父はギリシア人でした。パウロが彼に割礼を施した判断は、その地域の宣教状況の中で語られます。ギリシア人テスに割礼を要求しなかったことと併せて読みましょう。状況は異なり、どちらも割礼をキリストによる救いの根拠にはしていません。

聖書の参照箇所: 使徒言行録 16章1〜5節・ガラテヤの信徒への手紙 2章1〜5節

出典: acts, letters

信頼できる代表者

パウロはテサロニケの人々を力づけるためにテモテを送り、帰ってきた彼から励みとなる知らせを受け取ります。フィリピの信徒への手紙では、その真心からの配慮と実績ある奉仕をたたえています。これらは責任、関係、信頼を示しますが、完全な旅程は示しません。いくつもの手紙の冒頭にもテモテの名があり、パウロの手紙が共に働く共同体から生まれたことを思い起こさせます。

聖書の参照箇所: テサロニケの信徒への手紙一 3章1〜10節・フィリピの信徒への手紙 2章19〜24節・コリントの信徒への手紙二 1章1節

出典: letters

忠実な指導を学ぶ

テモテ宛ての手紙は、教え、人柄、会衆への配慮を結び付けます。伝統的なキリスト教の理解は、これをパウロの助言として受け取りますが、多くの現代の研究者はパウロの直接の執筆を疑問視しています。著者について広く合意のある手紙の伝記的証拠は、どちらの理解でも重要です。テモテの模範は、指導者の目立ちやすさや想像で作った性格描写ではなく、キリストに倣う配慮と実際に示された忠実さへ目を向けます。

聖書の参照箇所: テモテへの手紙一 4章12～16節・ テモテへの手紙二 1章5～7節・ フィリピの信徒への手紙 2章20～22節
出典: letters, brown

出典

- [acts] Acts 7-28; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/ACT.htm>
- [letters] Romans through Philemon; passage references are supplied in each section. <https://ebible.org/web/>
- [brown] Raymond E. Brown, An Introduction to the New Testament (Doubleday, 1997), chapters 30-31, “Who Wrote Titus and I Timothy?” and “II Timothy and Possibilities about the Pastorals”.

独自に制作した本文と画像：CC BY 4.0。聖書本文と第三者の素材は対象外です。

Pauline Letters・CC BY 4.0・<https://paulineletters.com/ja/explore/resources/timothy>